

## 大津市八屋戸守山地区江州音頭ワークショップで 得られた地域住民の環境観

下村 泰史

### 一、はじめに

本調査がその一部をなす科学研究費助成事業（基盤研究（B））「里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究」（以下、「里山科研」という）は、滋賀県大津市八屋戸守山地区（図1）をフィールドに、里山における「自然資本の意識化」と「ネットワークの創出」にむけた「地域参加型研究」を行ない、地域社会にある里山の自然資本を自立的に再生・活用するための具体的な空間計画、地域デザインを検討することを目的とするものである。

この「江州音頭ワークショップ」はその一環として、自然資本に関するさまざまな記憶・エピソード（図2①）をワークショップ等の地域参加型手法により歌詞にまとめあげ（図2②）、みんなで歌い踊ることで地域の自然文化を身体と場の記憶として伝えていく（図2③）ことを目指している<sup>(1)</sup>。

この過程を通じて、自然資本の意味や価値の、地域内での意識化を試みるとともに、江州音頭という、近江固有の地域性を持つと同時にまた地域を超えて愛されているフォーマットに乗せることで、地域内外をつなぐネットワークにも結びつけていきたいと考える。

今般図2①の過程で、歌詞の材料となる、自然資本についてのさまざまな記憶・エピソード群について集約できたので、その内容を紹介するとともに、一定の整理をはかることが本稿の目的である。

### 二、対象地の概要

守山は、滋賀県大津市の北部に位置し、旧志賀町域に含まれる約二五〇戸の集落である。北を木戸と接し、南の北船路とともに八屋戸をなす。東に琵琶湖を望み、西には蓬萊山、比良山の連峰の連峰が連なる。村はその間に位置し、さまざまな山と湖の恵みを受けてきた（図1）。

この地区に特徴的な産物として守山石がある。これは縞模様の特徴的な白チャートで、この地域でしか産出しない。小川治兵衛が注目し、明治期の京都での作庭に用いたことで知られている。この石は琵琶湖から疏水を経て京都に運ばれたが、石を切り出し運搬する、特徴的な車造りの技法が伝えられている<sup>(2)</sup>。もう一つ特徴的なものとして、マツ林（茨林）に生じたという「あぶらぼん」という茸がある。地域でよく食されていたようだが、昭和く平成の森林環境の変化によって、近年は見られなくなったという。隣接する木戸等では見られなかったという<sup>(3)</sup>ことで、地元の人たちの間では「守山ならではのもの」と認識されている。

これらの自然文化誌的事象は、高齢住民の間に記憶されているが、今まさに失われようとしているものである。

また、琵琶湖と比良山に挟まれた立地とそれがもたらす得意な眺望景観も、地域固有のものとして住民に理解されている。

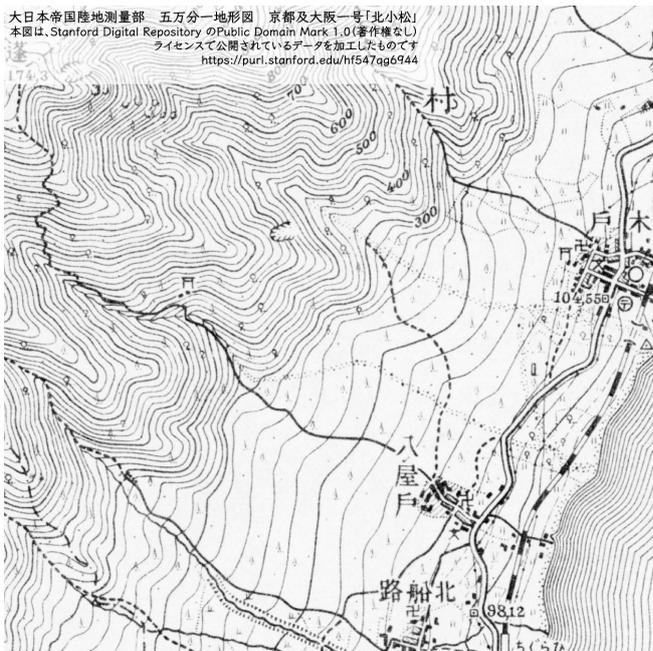


図1 八屋戸（守山）周辺の地勢（昭和7年）

表1 基本的なスケジュール

2019初夏	・研究チーム内における、地域情報、江州音頭、ワークショップ技法、等の共有化 ・地域の方への事前ヒアリングによる情報収集（盆踊り大会の実施プロセス等）
2019夏	・研究チームの地域の盆踊りへの参加（開催日：8/31（土））
2019秋	・第1回：顔合わせ、全体の進め方、「守山自慢」アンケート方法の共有等（9/11（水）） ・第2回：アンケート集約（地域自然資産の抽出）（10/16（水））
2019冬	・第3回：アンケート集約続き、うたづくりワークショップ（11/13（日）） ・第4～6回：うたづくりワークショップ（12月～3月）
2020春	・うたづくり、うたっておどる練習会
2020夏	・盆踊り大会での披露（開催日未定8月末を予定）
2020秋	・地元ワークショップ（とりまとめ方針：資産リスト、映像、CD音源…）
2020冬 2021春	・成果物制作およびとりまとめ
2021夏	・地元ワークショップ（うたっておどる） ・盆踊り大会での披露（第2回）

表2 アンケートの回収状況

	回答者数（名）	エピソード数（件）
40代	3	15
50代	8	37
60代	10	42
70代	7	31
80代	2	11
不明	1	3
合計	35	139

### 三、これまでの経過

守山地区の盆踊り大会での二〇一九年八月三十一日（土）地域の音楽グループ「ころろく」の皆さんへの呼びかけ等を経て、これまで九月十一日、十月十六日、十一月十三日（いずれも水曜）の会合を開催した。その後、十二月からは、本稿で紹介するエピソードを受けての歌づくりのプロセスに移行しているので、それについては別稿に譲りたい。



図2 ワークショップ要素と手順

九月十一日の集まりには、「ころろく」のメンバーを中心に八名の参加があった。この日は趣旨説明のあと、①この集まりが音楽グループ「ころろく」の動員ではなく、興味ある個人の参加とすることが確認された。また、②次回までに「守山自慢」のアンケート（図3）を行い、それをもとに歌詞を作っていくこと、③年度内に歌詞を作り、年度が明けてから練習を重ね、二〇二〇年夏の盆踊り大会で発表することなどが一応の決まりごととして合意された。音楽については、④参加者持参の資料（滋賀県江州音頭普及会によるプリント）等を参考に、江州音頭の基本的な節のなりたち（平節、祭文、役節等）について、楽曲を聴きながら共有した。⑤オリジナル伊勢音頭についての要望も挙げた。

十月十六日には、七名の参加があった。この日は、まず①回収されたアンケートの紹介が行われ、「守山自慢」について気づいたことを口頭で共有した（本稿ではこのアンケート結果を中心に検討する）。②次に用意した江州音頭の節づかいの音声データを聴き、歌詞を当てはめていく基本パターンについて検討した。

十一月十三日には、七名の参加があった。前回のアンケートの傾向性について議論・共有し、歌詞作りのためのフォーマット（全体構成および歌詞の当てはめテンプレート）についての検討を行った。また、地域の人々が歌いやすいキーとして、「ホ短調ト長調（Em/GM）」が提案された。

#### 四、「守山自慢」アンケートの内容について

「守山自慢」のアンケート用紙は、図3に示すとおりである。アンケートのタイトルは「あなたの「守山自慢」教えてください」とした。

アンケートの趣旨・目的については、「江州音頭の有名な演目に、近江の名勝や名物を歌い込んだ「湖国自慢」というものがあります。それにならって、守山の有志のみなさんとの、「守山自慢」を歌い込んだ新しい音頭づくりを考えています。できれば、来年（令和二年）の夏祭りでも、お披露目したいと思っています。というわけで、歌詞のネタとして、みなさんの「守山自慢」を教えてくださいました。」

回答してほしい内容としては、

「おいしいもの／忘れられないできごと  
／好きな場所や風景／かわい生き物／きれいな花／すてきな人／季節のあらわれ／歌や音の思い出…」  
という形で例示を行い、

「等々、印象に残っているものでできごとを、できたら五つくらい、ご記入ください。よろしくおねがいます！  
集まった「自慢」はまたお知らせいたします。」

として、五エピソード程度の想起、記入を求めた。

回答欄としては、「守山自慢」の記入欄を五つ設けるとともに、だいたい年齢および守山集落への居住歴の記入欄を設けた。

表3 設定したカテゴリと件数

カテゴリ	特徴	件数
眺望景観	琵琶湖や比良山など眺望される大きな風景要素	37
共同体	集落での暮らしや人間関係等	27
場所	名所や歴史的な沿革、思い出等と関連付けられた固有性のある場所	19
水・水辺	集落内外の水および水辺環境	18
信仰・祭礼	地域の信仰や祭礼など精神文化に関するもの	16
地域景観	守山地区内の域内景観やその構成要素	16
自然・生態	野生の動植物やその生息空間	15
食文化	地域の食文化に関するもの	12
気候・風土	気候・風土に関するもの	11
音風景	サウンドスケープ	9
土地利用・交通	道路、鉄道や現代的な土地利用等、開発に関するもの	4

表4 各回答者および各世代の関心事

個人ID	空間要素			五感・知覚				自然環境		人文・社会環境	
	場所	水・水辺	交通等	眺望景観	地域景観	音風景	食文化	気候風土	自然生態	共同体	信仰祭礼
401	1	3					1		2		
402		1			2				1	1	
403	1	1	1	2		1	2		1		
501	1	1		1		1			1		1
502				2	2			1		1	
503				1	1			1	1	2	
504	2	1		2	1						
505	2	2				3					
506				3		2		2			
507				2							
508	1			2	2			1		1	
601	1			2			1		3		
602		1		3	1		1		1	1	
603		1		2	1	1					
604			1	1				1		2	
605				1			1	1		1	
606				1						1	
607			1	4							
608					1					1	1
609		1		1	1					1	3
610								1		4	1
701				2				1		2	
702							1	1		2	
703	1	1		1	1		1				
704		1					1		1	1	1
705	1	1		1		1	1	1	1	1	1
706	3									1	1
707	1	1	1	2	1				2		2
801	2	1					1			4	5
802	1	1		1	1		1				
40代	2	5	1	2	2	1	3		4	1	
50代	6	4		13	6	6		5	2	4	1
60代	1	3	2	15	4	1	3	3	4	11	5
70代	6	4	1	6	2	1	4	3	4	6	5
80代	3	2		1	1		2			4	5
不明	1				1				1	1	
合計	19	18	4	37	16	9	12	11	15	27	16

#### 五、アンケート結果（その一）～全体のようす

十一月十三日（水）時点での回収状況は、表2のとおりである。今回は四十〜七十代にかけて計一九名から回答があり、一三九件のエピソードが得られた。今回は若年層については回答は得られていない。また、各世代に人数にはばらつきがある。

全アンケート結果については、本稿では表5〜15にカテゴリ毎にまとめなおしたものを掲出した。項目の構成等についてはそちらを参照されたい。

回答者については年齢層と連番により、個人IDを定めた。例えば四十代の三名については四〇一〜四〇三などと、六十代の十名については六〇一〜六〇一〇などと定めた。またエピソードについては、一人の回答者毎に連番（一〜五など）を与えた。この二つの番号を組み合わせ、各エピソードに固有のID番号を設定した。

エピソードの中には「想起タイプ」が特記されているものがある。ここでも

## あなたの 守山自慢 おしえてください!

江州音頭の有名な演目に、近江の名勝や名物を歌い込んだ「湖国自慢」というのがあります。それにならって、守山の有志のみなさんと、「守山自慢」を歌い込んだ新しい音頭づくりを考えています。できれば、来年（令和二年）の夏祭りで、お披露目したいと思っています。

そこで歌詞のネタとして、みなさんの「守山自慢」を教えてください！

①おもしろいことば(こと)

②おいしいもの / 忘れられないできごと / 好きな場所や風景 / かわいい生き物 / きれいな花 / すてきな人 / 季節のあられ / 歌や音の思い出...

③思い出に残っているものやできごとを、できたら5つくらい、ご記入ください。よろしくおねがいいたします！

集まった「自慢」はまたお知らせいたします。

ご記入は  
ウラ面へ

あなた **守山自慢** おしえてください!

ご年齢 (だいたい結構です) \_\_\_\_\_ 歳

守山にお住まいになってからの年数 (だいたい結構です) \_\_\_\_\_ 年

**提出方法** 次のいずれかの方法でお返しください。

- ①この用紙をくれた人に渡す
- ②スマホで撮って、yasushi@kuad.kyoto-art.ac.jp (下村泰史) へ送る
- ③公民館のボックスに入れる

**提出締切**

「守山における自然資本の認識とネットワークのための地域参加型研究」(守山科研) 音頭プロジェクト (仮称)  
 担当者: 下村泰史 (京都造形芸術大学芸術教養学科)  
 〒606-8107 京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学通信教育部芸術教養学科  
 メール: yasushi@kuad.kyoto-art.ac.jp 電話: 090-3720-7494

図3 アンケートの概要

世代	眺望景観	共同体	場所	水・水辺	信仰・祭礼	地域景観	自然生態	食文化	気候風土	音風景	土地利用・交通
80代	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	95%	100%
70代	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	95%	100%
60代	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	95%	100%
50代	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	95%	100%
40代	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	95%	100%

図4 世代毎の各カテゴリへの論及傾向

123

う「想起タイプ」とは、そのエピソードの時間的性格と関連するものである。多くのエピソードは現存する「守山のいいところ」として現在形で示されるが、中には「幼時の体験の記憶として語られたもの（記憶）」、「地域の伝説と関連付けられたもの（伝説）」、「歴史性のあるもの（歴史）」などの形で、過去と関連付けられたものが見出された。後述するように「記憶」は「食文化」や「自然・生態」との結びつきが顕著に見られる。

エピソードについては、その内容により「眺望景観」「共同体」「場所」「水・水辺」「地域景観」「自然・生態」「食文化」「信仰・祭礼」「気候・風土」「音風景」「土地利用・交通」の十一カテゴリに分類した。各カテゴリの基本的性格と該当エピソードの件数を表3に示す。

表3における合計件数が一八四件となり、先の総件数一三九件と一致しないのは、複数のカテゴリにわたるものもあるためである（例えば、六〇―一四「野原で山菜狩りを行ったこと」は「自然生態」と「食文化」の両カテゴリにわたるなど）。

今回の回収範囲においては、第一位「眺望景観」の三六件と、第二位「共同体」の二九件が際立っており、三位以下を大きく引き離すものとなっている。後述するように、眺望景観には特に印象的なものとして複数の人に共有されている場面もあり、守山における印象的な経験（守山自慢）において、眺望景観は大きな位置を占めると言えそうである。

ここで、各回答者の関心のあり方について、概見しておきたい。表3は、それぞれの人が挙げたエピソードのカテゴリの分布をまとめたものである。表4の下部では、世代毎の小計がまとめてある。

表4の各行の「2」や「3」といった数字は、各人の回答の中で、そのカテゴリについて複数のエピソードが挙げられていたことを示すもので、その人の関心の焦点を示すものでもある。

表4下部の世代毎小計から、各世代の一人当たり平均カテゴリ論及率を求め、その世代間比較を行ったものが図4である。

「眺望景観」は多くの人が挙げており、特に五十年代、六十年代において強く意識されていることがわかる。

「共同体」はいずれの世代からも挙がっているが、六十代以上において特に論及されている。「信仰・祭礼」も「共同体」と似た傾向を持つ（これは両カテゴリに分類されているエピソードが多いので当然ではある）が、八十代の方が特に顕著に触れている。

「水・水辺」と「自然・生態」も多くの世代に見られるが、四十代の人には特に強く意識されているようだ。

サンプル数が少ないので乱暴な一般化はできないが、これらのデータから現時点での守山集落の世代別グループの特徴をまとめるとするならば、次のように性格づけることが可能だろう。

四十代（一九七―一九八〇年生まれ）は、「水・水辺」「自然・生態」などから、直接体験による「環境への意識」が高い世代。

五十代（一九六一―一九七〇年生まれ）は、「眺望景観」「地域景観」への論及率が高く、「景観への意識」が感じられる世代。

六十代（一九五一―一九六〇年生まれ）は、「眺望景観」に多く論及しつつ、「共同体」への関心も高い世代。

七十代（一九四一―一九五〇年生まれ）は、いずれのカテゴリにもバランスよく論及しており、地域の自然・人文・社会環境を全体的に把握している世代。

八十代（一九三一―一九四〇年生まれ）は、「信仰・祭礼」など地域の伝統についての論及が目立つ、語り部的な世代。

こうした地域観・環境観の世代的な相違がどのようにして生じたかについては、より突っ込んだインタビューなどによる生活史調査が必要であると思われる。

## 六、アンケート結果（その二）〜カテゴリ毎の考察

ここからは、カテゴリ毎に取り上げ、エピソード内容についても検討を加えていきたい。

### （一）「眺望景観」について

「眺望景観」に関するエピソード群を表5にまとめた。「眺望景観」は全カテゴリの中でも最も多い、三七件の回答があったカテゴリである。

「カテゴリ」欄は、「眺望景観」以外のカテゴリにもわたっているものについて特記したものである。「場所」が挙げられているものは、眺望のための視点場が特定の場所として挙げられているものである。他には「気候・風土」と関連するものが複数見られる。

「想起タイプ」としては、個人的な記憶と関連付けられているものが少数見られる。大きな眺望景観は、想起されるものというよりは、「現前するもの」とい

う性格が強いように思われる。

この「眺望景観」カテゴリで特徴的なのは「共通の風景体験」の塊が見られることである。一つは「琵琶湖と山」(五件)をセットで捉える見方であり、もう一つは「琵琶湖と月や太陽」(七件)に関するものだ。特に後者の映像喚起力の強さ、風景体験としての強度については抜きん出たものを感じられる。今回の「守山自慢」の中でもっとも際立ったイメージである。これは、まさにこの近くで詠まれたと思われる「志賀の浦や遠ざかりゆく波間より凍りて出づる有明の月」(藤原家隆・新古今和歌集卷六冬歌六三九)と通じるイメージであり、時代を超えてさまざまな人々に共有されてきた風景体験なのだと思う。

## (二) 「共同体」について

「共同体」についてのエピソードを表6にまとめた。このカテゴリには二十七件のエピソードがあった。地域の人々の優しさや人の良さに触れているものが多く見られる。六〇四一二、七〇一三など、外部からの移住者との良好な関係について触れているものがある(四件)の注目される。

## (三) 「場所」について

表7は、「場所」についてのエピソード群で一九件ある。「場所」としてはその内部で遊べるような広場的な空間や、そこから周囲を眺め渡す眺望点などが挙げられている。ケヴィン・リンチのイメージアビリティ<sup>(4)</sup>に即して言えば、「ノード」のような、内部のある点的なエレメントと言える。

「想起タイプ」には「伝説」に関するものが見られる。また神社や寺院の境内地などもある。歴史性や伝説性、眺望点としての性質、神社や寺院等の人が集う聖空間、個人的な記憶等によって「固有化」された場所が挙げられている。

## (四) 「水・水辺」について

表8は「水・水辺」についてのエピソードで、一八件ある。山から流れてくる水、琵琶湖、湧き水、井戸等、多様な水とその良さが挙げられている。特に山から流れてくる流水についての記述は多く、四件挙がっている。一方琵琶湖については水泳の記憶と関連付けられた二件に留まっている。

「自然生態」「食文化」「地域景観」「音風景」と、幅広い別カテゴリと関わっ

ており、水の多面性がよく現れている。また、「想起タイプ」としては、少年期のレクリエーションの記憶と結びついたものも多く挙がっている。

## (五) 「信仰・祭礼」について

「信仰・祭礼」についてのエピソードは一六件ある。表9にまとめた。今回は神社の行事に触れているもの全般をこのカテゴリに入れた。祭礼については村の行事としての意味合いもあり、「共同体」と必ずしもはっきり分離できないところがある。今回のアンケートでは、「五ヶ祭」「こんびら祭」「皆頭祈」「山もどり」「伊勢大神楽」「伊勢講」「愛宕講」等多くの行事についての情報が得られた。

## (六) 「地域景観」について

「地域景観」に関するものは、表10に示した一六件である。「地域景観」として挙げられているものは、主に集落内の域内景観やそれを特徴づける材料についてのものである。ケヴィン・リンチ流に言えば、ディストリクトのイメージに関わるものである。「場所」が特に固有化された地点であったのに対し、この「地域景観」カテゴリに集められたものは、より緩く広がっていたり分布していたりするものだ。

「想起タイプ」については特段のものは見られない。現に見られるものが挙げられているようだ。

特徴的なのは、地域固有の産物である「守山石」や、「石積み」についての記述が多く見られることである。

## (七) 「自然・生態」について

表11は、「自然生態」カテゴリについてまとめたものである。一五件のエピソードが寄せられている。ほとんどのエピソードが川や山野での採集体験と結びついている。「いたどり」「あけび」「山菜」「あぶらぼん」「松たけ」など、食用になるものの採集エピソードも見られる。

特徴的なこととしては、「想起タイプ」において、「記憶」に関わるものが多いことが挙げられる。「思い出話」の形を取るものが多いということである。このことは、こうした採集体験が本人の少年期、あるいは開発以前といっ

表5 「眺望景観」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
403	2 ののくろから見た(見える)景色 (たんぼ、琵琶湖、湖西線)にほっとする	場所		琵琶湖
403	1 琵琶に映る満月の光の道 小さい時神様が通ってくると思っていた		記憶	琵琶湖と月
501	1 五ヶ祭が行われる頃でも蓬莱山に残雪があり、その景色が印象的でした	信仰・祭礼	記憶	山
502	1 びわ湖の見える風景			琵琶湖
502	2 風は強いけど比良山に守られる感じ	気候風土		山
503	1 空気がおいしい、景色がいい	気候風土		
504	1 日々変わる琵琶湖の朝の風景の美しさ			琵琶湖
504	2 夜のうちにまっ白に姿を変えた比良の山			山
506	1 雲間より 月出て びわこはゆれて 波白く 輝く道となる			琵琶湖と月
506	2 山の影つるべおとしの夕暮れにこれまたひぐらしカナカナと鳴きてなごりを惜しむのか	音風景		山、生物音
506	3 青き空に白雲は山のすそのより湧きたちて、強き風緑の深きより吹きて、しとしときつねの嫁入りふりそそぐ	気候風土		山
507	1 湖の景色がきれい 太陽が昇る時、月が出る時、湖が光ってきれい 月の光の道ができる			琵琶湖と月
507	2 山がきれい、朝日が山にあがると赤く光る			山
508	1 二重の虹	気候風土		
508	2 蓬莱山と琵琶湖パレイ	場所		
601	1 朝日に染まるびわ湖を見ながら醒めている			琵琶湖
601	2 蓬莱山からのびわ湖のながめが一番	場所		琵琶湖
602	1 湖面映る満月の風景 月の光が琵琶湖にゆらいでいる			琵琶湖と月
602	2 沖島や伊吹山の見える琵琶湖の風景			琵琶湖
602	3 雄大な雪の積った比良山の風景 外地域への移住の際、はげましてくれた山	共同体	記憶	山
603	1 月が出る時に琵琶湖湖面に映る影が本当にきれい			琵琶湖と月
603	2 背後の山、前に琵琶湖、何者にも代え難い景観である			湖と山
604	1 前方には琵琶湖、後方は蓬莱山、風光明媚な土地柄			湖と山
605	1 美しい景色 前面の琵琶湖 背面の蓬莱山、冬の雪景色等自然環境の美しさ	気候風土		湖と山
606	2 風景 山なみを見るのが好き 朝日や月の明かりが湖面に写るのを見るのが最高			琵琶湖と月 湖と山
607	1 琵琶湖と山が近い			湖と山
607	2 蓬莱山の四季の移ろいがきれい			山
607	3 伊吹山と沖島、三上山が見える			山
607	5 毎日違う琵琶湖が見える			琵琶湖
609	5 高い所からの琵琶湖のながめ 天気の良い日は対岸の山々や町が見える 気分が晴々する			琵琶湖
701	1 のどかな山とびわ湖が両方ある			湖と山
701	2 びわ湖がありすばらしい			琵琶湖
703	1 琵琶湖の眺めは滋賀県一			琵琶湖
705	1 金比羅さんの山の上からの琵琶湖の美しさは毎年(雪の年はダメですが)感動ものです	場所		琵琶湖
707	2 風景: 昔見た山の景色、春、こぶしの白い花と若芽の緑と松の緑がいろいろ交じって美しかった	自然・生態	記憶	
707	3 風景: 早朝、東の空から太陽が昇ってくる空と湖面の景色。一瞬だけ美しい			琵琶湖と太陽
802	1 山の景色が美しい			山

表6 「共同体」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
1 2	近江源氏 潜んだ森山		歴史	
402 2	住んでる人が明るい性格			
502 3	仲良しご近所さん！			
503 3	人がやさしい 親切			
503 4	お年寄りが元気、子どももかわいい			
508 3	仲がいい			
602 3	雄大な雪の積った比良山の風景 外地域への移住の際、はげましてくれた山	眺望景観	記憶	山
604 2	旧住民は新住民に対して、親切な人が多い土地柄			新旧交流
604 3	根からの悪人が居ない平和な土地柄			
605 3	移住してきた人にやさしい地域住民			新旧交流
606 1	ことばで「おきばりやす」「おしまいやす」このことばが好きです			
608 2	お互いの家々の交流 人々は皆気がるに楽しくおしゃべりできる			
609 4	みどりの広場の桜 満開の時はすばらしい グランドゴルフをするグループもある	地域景観		
610 1	子供地蔵が辻々にあって、村の子供達は皆んな元気で明るい子が多い。守ってもらってる！！	信仰・祭礼		
610 2	守山(森山)は歴史が沢山あります！！		歴史	
610 4	旧・新の居住者が仲良く暮らしています！！			新旧交流
610 5	シニアに対して、気持よく ボランティア精神がある！！			
701 3	他府県からの者と地もととが仲良く出来る			新旧交流
701 4	人々の情が厚くところがうれしい			
702 1	守山の 人がいい			
702 2	長谷川さんのお寿司	食文化		固有の人
704 2	祭りは長男が順番に神楽打ちと言う役をするのがしきたりで面白い？…	信仰・祭礼		
705 3	五ヶ祭りで若衆達の輝く衣装がとてもキレイで(来年から祭りが無くなる？ので淋しい)	信仰・祭礼		固有の場所
707 4	季節:金比羅神社とその大祭	信仰・祭礼		
707 5	季節:3月2日頃に來られる伊勢大神楽の笛とたいこの音で春がきたと感じる	信仰・祭礼		
801 1	自慢にはなりません私が守山に来て思った事は、村人が亡くなった時は村の人が総出で見送りとむらって下さる事に感動しました。(忌明まで)	信仰・祭礼	記憶	
801 2	八人しゅうがまい年されるどんと(山の神様)で大きい火をもやし村の安全を願いのりをされるありがたい神事	信仰・祭礼		
801 3	いろんな神事があります。当屋をするのが女性にとっては大変な事ですが、今となってはそんな事くらいで村が守られているのであればなんでもない事です	信仰・祭礼	記憶	
801 7	(守山の神事)私ができるだけです。五ヶ祭5.5 皆頭祈5.24 山もどり9.28 日待1.14 あたご講1.23 いせ講1.10	信仰・祭礼		

表7 「場所」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
1	3 四国の金毘羅さん～山の神金比羅山こちらに矢が飛んで来た		伝説	
401	3 こんびらさん			聖空間
403	2 ののくろから見た(見える)景色 (たんぼ、琵琶湖、湖西線)にほっとする	眺望景観		琵琶湖
501	3 小学生の頃、若宮神社で野球やサッカーをしたこと		記憶	聖空間
504	4 若宮神社の涼しい風と水の音	水・水辺		聖空間
504	5 伝え聞く長五郎岩のたのめしさ		伝説	
505	1 小女郎ヶ池・民話は、傷と束縛	水・水辺	伝説	
505	2 天空の池・自由	水・水辺		
508	2 蓬萊山と琵琶湖パレイ			
601	2 蓬萊山からのびわ湖のながめが一番			琵琶湖
703	3 古くから守山集落を守るコンピラさん			聖空間
705	1 金比羅さんの山の上からの琵琶湖の美しさは毎年(雪の年はダメですが)感動ものです			琵琶湖
706	1 比良山の中腹にある金比羅神社 毎年3月10日前後に大祭が行われる。(昔は3月10日に開催されていた)			
706	2 こうもり穴			
706	3 ノリ子川上流にある大堰堤と樹林帯の堰堤			
707	1 風景:湖岸の道添いとみどりの広場の桜 特にみどりの広場は山に囲まれて静かで、咲き始め、満開、"はらはら"と花びらが散る頃どれも素晴らしい			
801	5 五ヶ祭もありますが、3月10日のこんびら祭もあります。山の上まで歩くのがちょっとしんどいですが上まで上がると気持ちいいですよ。			
801	6 こうもりあながあるそうですが入口は見た事ありますが入った事はありません。守山自慢になったかどうかわかりませんが私の思うままです			
802	2 こうもり穴は子供の頃よく入った		記憶	

表 8 「水・水辺」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
401	2 川でのあゆつかみ、さわがにとり	自然・生態		
401	4 わき水や井戸の水が夏はつめたくて足をよくつけていた		記憶	
401	5 夏休みに浜で泳いだこと		記憶	琵琶湖
402	5 水がキレイ(山から流れてくる水、琵琶湖の水、生水(しょうず)(湧水))			
403	4 小さい時 川で冷やした麦茶の味が忘れられない	食文化	記憶	
501	4 夏休みに毎日水泳場で泳いでいたこと		記憶	琵琶湖
504	4 若宮神社の涼しい風と水の音	場所		聖空間
505	1 小女郎ヶ池・民話は、傷と束縛	場所	伝説	
505	2 天空の池・自由	場所		
602	5 守山石の川を流れる水の景観 三面張の守山石水路を速い流れで水が下る	地域景観		流水、 固有の産物
603	4 山から流れくる水の豊富さ			流水
609	3 若宮神社(5月) 守山の神さん。5月の祭りにはいろいろ催しがある。常に気がるにお参りに行く。親しみやすい神			聖空間
703	4 蓬萊山から流れ落ちるミネラルいっぱい清流			流水
704	3 山の水がキレイで美味しいので金比羅さんの上まで汲みに行ってコーヒーをたてるのが楽しみです	食文化		流水
705	4 一年中川の音がするのがとても癒される	音風景		流水
707	6 思い出:昔、山の谷川に沢がにがいっぱいいた	自然・生態	記憶	
801	4 守山の田んぼで作付されているお米はとてもおいしいと言われてます。毎日いただいているとわかりませんが山の水がお米をおいしくしてくれるそうです。現在は琵琶湖の水も逆水されていますが…。守山の田んぼの土質もあるかわかりません。	食文化		
802	4 山の水が美味しい 昔はそれでお米を炊いたらおいしかった	食文化	記憶	

表9 「信仰・祭礼」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
501 1	五ヶ祭が行われる頃でも蓬萊山に残雪があり、その景色が印象的でした	眺望景観	記憶	山
608 3	1月、5月、9月の神事 グループで集まり守山の事のとり決めを行ったりなごやかに交流する (男子のみの交流)			聖空間
609 1	山の神(1月) AM5:00に当番の家に集合、赤飯等をよばれてから山の神に参る。神社の前で火 をたき酒もりをする。おそなえに必ず「ドマンコ」(魚)を供える			聖空間
609 2	こんびらさん(3月) 山の上の方にある神社。草もちやすしを作り持って参る			聖空間
609 3	若宮神社(5月) 守山の神さん。5月の祭りにはいろいろ催しがある。常に気がるにお参りに行 く。親しみやすい神			聖空間
610 1	子供地藏が辻々にあって、村の子供達は皆んな元気で明るい子が多い。守ってもらってる！！	共同体		
704 2	祭りは長男が順番に神楽打ちと言う役をするのがしきたりで面白い？…	共同体		
705 3	五ヶ祭りで若衆達の輝く衣装がとてもキレイで(来年から祭りが無くなる？ので淋しい)	共同体		固有の場所
706 1	比良山の中腹にある金比羅神社 毎年3月10日前後に大祭が行われる。(昔は3月10日に開 催されていた)	場所		
707 4	季節:金比羅神社とその大祭	共同体		
707 5	季節:3月2日頃に来られる伊勢大神楽の笛とたいこの音で春がきたと感じる	共同体		
801 1	自慢にはありませんが私が守山に来て思った事は、村人が亡くなった時は村の人が総出で見送 りとむらって下さる事に感動しました。(忌明まで)	共同体	記憶	
801 2	八人しゅうがまい年されるどんと(山の神様)で大きい火をもやし村の安全を願いのりをされる ありがたい神事	共同体		
801 3	いろんな神事があります。当屋をするのが女性にとっては大変な事ですが、今となってはそんな 事くらいで村が守られているのであればなんでもない事です	共同体	記憶	
801 5	五ヶ祭もありますが、3月10日のこんびら祭もあります。山の上まで歩くのがちょっとしんどい ですが上まで上がると気持ちいいですよ。	場所		
801 7	(守山の神事)私ができるだけです。五ヶ祭5.5 皆頭祈5.24 山もどり9.28 日待1.14 あたご講 1.23 いせ講1.10	共同体		

表 10 「地域景観」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
1	1 花が好き、花が咲く道	自然・生態		
402	3 昔ながらの棚田の風景			
402	4 石積みの風景(民家の石垣、田んぼの石垣、水路の石垣)			
502	4 守山石の石垣のある小道			固有の産物
502	5 桜の季節は桜スポットがいっぱい			
503	5 守山石のシマシマがきれい			固有の産物
504	3 棚田に実った稲とヒガンバナ			
508	4 守山石			固有の産物
508	5 沢山のお地藏様			
602	5 守山石の川を流れる水の景観 三面張の守山石水路を速い流れで水が下る	水・水辺		流水、 固有の産物
603	3 歴史を感じさせる石積みの景観			
608	1 自然いっぱい守山 各家々にも花が咲き、山、小川、田が近くにあり親しみやすい			
609	4 みどりの広場の桜 満開の時はすばらしい グランドゴルフをするグループもある	共同体		
703	2 日本庭園に欠かせぬ守山石			固有の産物
707	1 風景:湖岸の道添いとみどりの広場の桜 特にみどりの広場は山に囲まれて静かで、咲き始め、満開、“はらはら”と花びらが散る頃どれも素晴らしい	場所		
802	3 棚田の景色がいい(国道から下)			

表 11 「自然・生態」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
1	1 花が好き、花が咲く道	地域景観		
401	1 いたどりを学校の帰りにとって食べたこと	食文化	記憶	
401	2 川でのあゆつかみ、さわがにとり	水・水辺		
402	1 ニホンキジなど外来種の生き物			
403	3 小さい時里山に入り食べた「あけび」の味	食文化	記憶	
501	2 カブト虫、くわがたを200匹くらい集めたこと。昔は採れるポイントがいくつもあった		記憶	
503	2 動物いっぱい 自然がいっぱい クマ、シカ、サル、キツネ、タヌキ、ウサギ、リス、アナグマ、イノシシ			
601	3 小さな頃、手づかみで小鮎を取った思い出		記憶	
601	4 野原で山菜狩りを行ったこと	食文化	記憶	
601	5 クワガタを小さな頃追っていた		記憶	
602	4 あぶらぼんの味 今は取れなくなったきのこの味が懐かしい	食文化	記憶	
704	1 野生動物との知恵比べも結構楽しいものです(イノシシ、猿、鹿、イタチ…)			
705	2 嫁に来る前に松たけが多く採れる所と聞いていたのですが、本当に毎年一杯採れました！！ 多い時は大型ゴミ袋に二杯も！！	食文化	記憶	
707	6 思い出：昔、山の谷川に沢がながいっぱいいた	水・水辺	記憶	
707	2 風景：昔見た山の景色、春、こぶしの白い花と若芽の緑と松の緑がいきり交じって美しかった	眺望景観	記憶	

表 12 「食文化」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
401	1 いたどりを学校の帰りにとって食べたこと	自然・生態	記憶	
403	3 小さい時里山に入り食べた「あけび」の味	自然・生態	記憶	
403	4 小さい時 川で冷やした麦茶の味が忘れられない	水・水辺	記憶	
601	4 野原で山菜狩りを行ったこと	自然・生態	記憶	
602	4 あぶらぼんの味 今は取れなくなったきのこの味が懐かしい	自然・生態	記憶	
605	2 おいしい水、新鮮な野菜、米を日常的に食ひきる			
702	2 長谷川さんのお寿司	共同体		固有の人
703	5 徳川幕府の重宝した守山米		歴史	固有の産物
704	3 山の水がキレイで美味しいので金比羅さんの上まで汲みに行ってコーヒーをたてるのが楽しみです	水・水辺		流水
705	2 嫁に来る前に松たけが多く採れる所と聞いていたのですが、本当に毎年一杯採れました！！ 多い時は大型ゴミ袋に二杯も！！	自然・生態	記憶	
801	4 守山の田んぼで作付されているお米はとてもおいしいと言われていています。毎日いただいていると わかりませんが山の水がお米をおいしくしてくれるそうです。現在は琵琶湖の水も逆水されていますが…。守山の田んぼの土質もあるかわかりません。	水・水辺		
802	4 山の水が美味しい 昔はそれでお米を炊いたらおいしかった	水・水辺	記憶	

表 13 「気候・風土」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
502	2 風は強いけど比良山に守られる感じ	眺望景観		山、風
503	1 空気がおいしい、景色がいい	眺望景観		
506	3 青き空に白雲は山のすそのより湧きたちて、強き風緑の深きより吹きて、しとしとときつねの嫁入りふりそそぐ	眺望景観		山
506	5 これまた虹が立つ これまた虹かかる ひとえ二重の虹かかる			虹
508	1 二重の虹	眺望景観		虹
604	4 平野が無い為工場(大規模メーカー)皆無、よって空気が綺麗	土地利用 ・交通		
605	1 美しい景色 前面の琵琶湖 背面の蓬莱山、冬の雪景色等自然環境の美しさ	眺望景観		湖と山、雪
610	3 空気、水、緑 キレイな自然が気持ちいい！！			
701	5 風があり少々大変です			風
702	3 災害がない			
705	5 昔は雪が多くて駅まで通勤する前の雪かきが大変だった！駅まで長靴でホームではき替えて会社に行った事もありましたが懐かしい…		記憶	雪

表 14 「音風景」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
403	5 夜、静かになり聞こえてくる、湖西線に電車が通る音に哀愁を感じる	土地利用 ・交通		
501	5 四月頃から寝る頃にカエルの鳴き声が子守唄になっていたこと		記憶	生物音
505	3 朝日、鳥のさえずり			生物音
505	4 夏の終わり、虫の音			生物音
505	5 せみしぐれ、カエルの合唱			生物音
506	2 山の影つるべおとしの夕暮れにこれまたひぐらしカナカナと鳴きてなごりを惜しむのか	眺望景観		山、生物音
506	4 朝のめざめ夢のまにまに日暮らしのカナカナとなきたる声きく			生物音
603	5 深夜遠くから聞こえてくる鹿の鳴き声のもの寂しい雰囲気			生物音
705	4 一年中川の音がするのがとても癒される	水・水辺		流水

表 15 「交通・土地利用」に関するエピソード

ID	自慢エピソード	関連 カテゴリ	想起タイプ	備考
403	5 夜、静かになり聞こえてくる、湖西線に電車が通る音に哀愁を感じる	音風景		
607	4 京都方面に車で出かける時、いつも渋滞とは逆車線を走しれる			
707	7 思い出：江若鉄道の駅舎とJR湖西線の開通		記憶	
604	4 平野が無い為工場(大規模メーカー)皆無、よって空気が綺麗	気候風土		

た、過去のある時期と結びついており、大人になった今日では行われな、あるいは環境が失われているものであること示している。一方で、四十代という比較的若い世代から高い率で挙がっていることには注意すべきだと思われる。このことは、その体験が遠い過去ではないことを示しているからである。

#### (八) 「食文化」について

「食文化」については、一二件のエピソードが寄せられている。表12に示す。「記憶」と関連するものが多く見られるのが大きな特徴だ。その多くは山野での採集体験と関わっている。「守山米」の歴史性についてのもの、「長谷川さん」という固有の個人に関わるものも見られた。

#### (九) 「気候・風土」について

「気候・風土」は地域の気象現象や空気のようなすについてのエピソードが集まっている。表13に示す。一一件のエピソードがある。「眺望景観」等景観に結び付けられたものもある。「空気のきれいさ」「風の強さ」「虹」「雪」が複数挙げられている。比良山の雪景は「比良暮雪」として近江八景<sup>⑤</sup>の一つに数えられており、この地域の景観体験としては歴史的に共有されてきた大切なものと考えられる。

#### (十) 「音風景」について

「音風景」は「食文化」とともに、視覚以外の知覚によって感じられる地域像と関わるものだ。表14は「音風景」についてのエピソード九件である。

カエルとヒグラシが複数ある他、鳥のさえずり、虫の声、鹿の声等の生物の発する音が多く挙がっている。非生物系の音としては、流水の音と湖西線の音が挙がっている。生物系、非生物系いずれも土地利用や植生といった視覚的な景観要素とも関わりをもつものであり、今後図化等の作業によってより多くの発見が得られると思う。

#### (十一) 「交通・土地利用」について

「交通・土地利用」について表15にまとめた。四件ある。他のカテゴリの多くが、もともとある自然や伝統と関わっているものが多い中で、現代になってか

らの開発と関わるものがこのカテゴリに集まっている。他のカテゴリに比べて、人工的・産業的な性格を帯びているが、記憶の中の江若鉄道や哀愁のある音をたてて通るJR湖西線は、すでに風土の一要素になっているように見える。

#### 七、まとめ

##### (一) 全体のまとめ

以上を整理すると、下記のようになる。

- ① 「眺望景観」「共同体」「場所」「水・水辺」「信仰・祭礼」「地域景観」「自然・生態」「食文化」「気候・風土」「音風景」「交通・土地利用」の十一カテゴリに分類できた。
- ② 直接的な自然体験への論及が多い四十代、共同体への論及が増えてくる六十代、各方面への目配りがきいている七十代、信仰・祭礼等地域の伝統について語る八十代といった、世代的な傾向が見られる。
- ③ 「眺望景観」に関するエピソードが際立って多い。
- ④ 「琵琶湖と月」眺望景観が特に印象的なものとして挙がっている。また、集落の裏山(蓬萊山、比良山)の雪景についてのエピソードもある。これらは個人的な記憶であると同時に、新古今集に歌われた(志賀の浦)景であり、また近江八景の一景(比良暮雪)でもある。「眺望景観」は記憶としてではなく、現前性のあるものとしてエピソード化されているが、同時にこうした時間を超えた景観体験があることは、際立った風土の特徴である。
- ⑤ 「共同体」においては地域の人々の相互の、あるいは外部からの移住者との親和的な関係が高く評価されている。
- ⑥ 「自然・生態」「食文化」「水・水辺」については、現前するものとしてより「記憶」として語られる傾向がある。
- ⑦ 「地域景観」を特徴づけるものとして「守山石」「石積み」が多く挙がっている。
- ⑧ 伝説や歴史、個人的な経験などによって固有化された、多くの「場所」が存在している。
- ⑨ 「水・水辺」については他のカテゴリと関連するものが多く、水の環境要素としての多面性がうかがわれた。
- ⑩ 「音風景」には、生き物の出す声が多く挙がっている。

⑪ 「食文化」は採集体験を通じて「自然・生態」との関わりが強くうかがわれた。

⑫ 「気候風土」では、「空気のきれいさ」「風の強さ」「虹」「雪」に触れたものが見られた。

### (二) 現前するものと記憶・歴史

「自然・生態」「食文化」「水・水辺」など、個人の生活史のなかで過去と関連づけられ、「記憶」として語られるものがある一方で、ひろがりのある「眺望景観」や「音風景」など、今の生活の中で体験できる、「現前するもの」が数多く挙がっていることが印象的であった。中でも、「琵琶湖と月」「比良山の雪」など、今日においても印象深く体験され続けている場面が、同時に歴史的なものでもあるということは、この地域の風土を強く特徴づけているようにも思われた。

### (三) アンケートに現れなかったもの

なお、今回の「守山自慢」ではあまり挙がってこなかったものもある。一つは、歌や踊りなどの音楽文化についてのものが見られなかったことだ。事前のヒアリングでは、お祝いの折りなどに伊勢音頭がよく唄われていたことなどが明らかになっていたが、そうしたものについてのエピソードは挙がってこなかった。

二つ目は、労働に関するものが見られなかったことである。守山石の運搬やその他の車づくりなど、地域固有の仕事と技術があることが、既に明らかにしているが、農作業や山仕事の場面に着目したものは今回は挙がっていない。三つ目としては、災害の記憶については今回のアンケートにはまったく現れていないことがある。

第二点と第三点は、今回のアンケートが、「自慢」という感覚的な歓びと関わりのある問いかけであったことと、関わりがあるように思われる。より立体的に共同化されている風土像を得るためには、さらに別の問いかけが必要になるであろう。

今回のアンケートと江州音頭ワークショップのなかで、場所やモノやできごとをめぐって、さまざまな言葉が飛び交った。それは、これまで必ずしも意識されてこなかった地域環境資産（≠守山自慢）を意識しなおす機会となったと思う。

今後、歌づくりとその実演機会の創出を通じ、地域の中で環境資産を意識しつけ、さらに外部に発信していく回路を作っていきたい。

### 謝辞

本調査報告書は、JSPS 科研費 JP18H0227（科学研究費助成事業（基盤研究（B））「里山における自然資本の意識化とネットワークのための地域参加型研究」）の助成を得て執筆されました。

### 註と参考文献

(1) 今回のフィールドの近傍において、住民参加ワークショップによって地域の記憶を遊戯のフォーマットに乗せて共有を図った先行的な試みとして、成安造形大学附属近江学研究所による「仰木ふるさとカルタ」制作があり、今回の研究企画においても参考にした。この仕事については、永江弘之・大原歩編、成安造形大学附属近江学研究所監修『青木ふるさと物語―仰木ふるさと五感体験アンケートまとめ―里山く水と暮らし第2期 生活文化の聞き取り調査、および、仰木ふるさとカルタ制作』（研究期間二〇二一年四月～二〇二三年三月）研究成果」にまとめられている。

(2) 石坂定次郎・大岩剛一「石出し車が行くみち―神々と暮らしが交差する風景―」成安造形大学附属近江学研究所『文化誌近江学第9号』サンライズ出版、二〇一七年一月

(3) 謎のきのこ「あぶらぼん」についてはほとんど資料がないが、日本の食生活全集滋賀編集委員会編『聞き書滋賀の食事（日本の食生活全集）』、農山漁村文化協会、一九九一年六月には、当該地域のやや北の朽木地域（現高島市）での例が見える。

(4) ケヴィン・リンチ著、丹下健三・富田玲子訳『都市のイメージ』、岩波書店、一九六八年九月

(5) 琵琶湖の八大名所を選定したもので、江戸前期に成立したと言われる。北宋期の「瀟湘八景図」に想を得たものとされ、絵画と文学の両方で主題とされてきた。石山秋月、勢多（瀬田）夕照、粟津晴嵐、矢橋帰帆、三井晚鐘、唐崎夜雨、堅田落雁、比良暮雪が八景とされる。